

# きずな



津田沼分会  
No.52

2023・  
12・20

発行責任者  
鈴木 浩  
編集・教宣

## 分会大会開催

12月7日、地本において分会大会を開催しました。

鈴木分会長、加藤地本委員長のあいさつの後、各職場から利用者だけでなく社員に対しても負担を強いる現状が報告されました。

維持費削減のため稼働する自動改札機を削減した結果、磁気の乗車券を通せる専用の



通路が無くなった。相次ぐみどりの窓口閉鎖により、改札で対応する業務が増えたが駅務長をはじめ管理者たちは手伝おうとしない。資料をタブレットで配信するだけで実践的な勉強が開催されていない。要員不足を抜本的に解決しようとはせずに助勤で回しているなど浮き彫りになったのは、やりがいなど

とは無縁の何とか仕事をしているといった危うい職場環境でした。

大会終了後、忘年会を開催し交流を深めました。

役員体制

委員長 鈴木 浩

副委員長 太田 久市

書記長 佐川 正則

執行委員 松本 光男  
高橋 弘幸  
川崎 義博

## また負担が

京葉線内で完結する車イス利用者の案内はタブレットで情報を送り電話で確認連絡を行っています。来年以降、利用者自らが車イス案内の予約ができることになりましたが現場には不安しかありません。予約は2日前までですが、車イス案内のみを担当する社員などおら

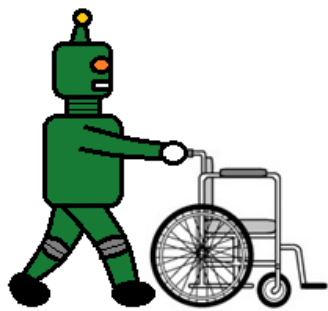
なつたから次の列車でお願いします」などと言ったことも容易に予想でき、降車駅との手配のやり直しなど、ただ負担が増えるだけでなぜこんなことをやるうとするのか？

「ヒューマンエラーを無くすため」とのことですが、むしろ増えるのではないだろうかと言うのが現場の本音です。

来年中には京葉線以外の路線にも拡大される予定です。

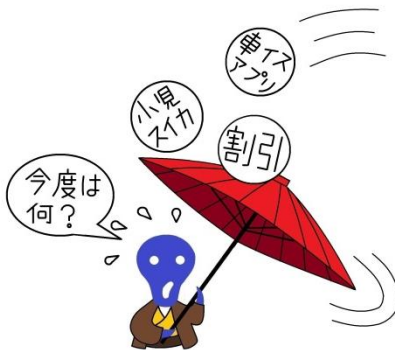
再度開かれる勉強会でもっと疑問点が解消できればいいのですが時間的な余裕はそれほどありません。会社は「ヒト起点のサービス転換」とか「社員の成長意欲に……」などと言いますが、「ヒト」である感情があるが故、若い社員の離職が相次ぐ現状では現場とのギャップがかなりありそうです。

新幹線などはともかく、在京線は何日も前から列車を利用する必要があるのだからか？ 予約の時間に来なかつたら？ 「来るのが遅く



## 不安の解消は？

2 微体制だったのが1 徹となり仕事に対するモチベーションを失って退職したエルダー社員もいます。本当に必要なのか疑問を抱かざるを得ない今後の車イスアプリが、離職すべきか迷っている若い社員の背中を押すことが無いよう祈るしかありません。



◎ 非番者集会

1月12日地本会議室  
11時～

千葉地本HP

